

優秀卒業論文・学科長賞

氏名	常深 佑河
所属	地域文化系プログラム／アジア・太平洋文化論クラスタ
賞名	「グローバル文化ここにありで賞」
論文題目	バリ親族集団ダディアをつなぐもの：親密性はどのように維持されるのか
学科長コメント	インドネシアバリ島の父系親族関係を指すダディアの一員としてフィールドワークを行い、「家族(親族)とは何か」の分野横断的な問いに応える研究。産業構造の転換とグローバル化を見た現代バリ社会の動態に応じて変容するダディアを、文化人類学におけるギアツの象徴秩序論と家族社会学における親密性の概念を融合させ、象徴秩序と日常実践が交差する関係の場として再定義して説得力がある。日本で育ち父方バリルーツを持つOutsider/Insiderの立場性が、地理・人間関係の図示などに代表される俯瞰的な筆致にも活かされているようで興味深い。
クラスタ推薦文	本論文の著者は、高校2年生の時にバリ人の父を亡くし、その遺骨を届けるためにバリ島カランガセム県に渡り、以来、バリの親族と交流するようになった。亡き父の面影を持つ日本育ちの著者は、バリの父方の親族から親しみを持って歓迎を受け、英語ができる同世代のはとこや叔父・叔母らを通じて、自分自身のバリの親族との交流を重ねつつあった。著者が卒論のテーマとして取り上げた、ダディアと呼ばれるバリ特有の親族集団は、著者に対して開かれた自分自身の親族であり、かつ探求するべき道の異文化世界でもあった。著者は、C・ギアツ&H・ギアツ(1989)による文化人類学の古典的名著をはじめ、吉田(1992)、中谷(2003)らの研究を踏まえ、閉鎖的村落の枠内で定式化してとらえられる傾向のあった父系親族集団ダディアについて、現代世界に生きる自分自身の親族の事例を通じて批判的に検討し、特にダディア内における親密性の濃淡をもたらす関係性について論じた。充実したフィールドデータに基づき、古典的親族理論に挑んだ力作であるといえる。
氏名	桑田 梓
所属	異文化コミュニケーション系プログラム／越境文化論クラスタ
賞名	「地図は歴史を語るで賞」
論文題目	イタリア地理学協会(Società Geografica Italiana)所蔵の「伊能図」写本について
学科長コメント	日本とイタリアでの現地調査と一次資料調査を通じて、イタリア地理学協会所蔵の「伊能図」写本の詳細とその来歴を解明した研究。イタリアでは、当該写本の実物を直接閲覧し特徴を詳細に記録、国立統計研究所でもロベッキ(明治維新期の初代イタリア日本領事)の報告書や手記を分析した。日本では、イタリアの「伊能図」写本と学習院大学図書館所蔵の「中図」の比較を行い、両者の関係性を明らかにした。これら詳細かつ果敢な調査によって、両国の歴史的背景が交差する中で「伊能図」がイタリアに渡った経緯を解明したことは、学術的に高い価値を持つと言える。
クラスタ推薦文	本論文は、イタリア留学中に、ローマ地理学協会に収蔵されている伊能図を「発見」したことに端を発する。シーボルト事件でも知られるように、海外に流出している伊能図はいくつかあるが、本論文はイタリアに流出した伊能図写本を詳しく検討したものである。イタリアで発見したこの(カタカナ書きにされている)地図を、原典と考えられる地図(学習院収蔵の中図)と詳しく比較した考察を加えている。またこれを日本に持ち出したとされる幕末・明治初期のイタリア外交官であったクリストフォロ・ロベッキの手記(イタリア語手稿)なども検討し、持ち出された経緯や状況についての検討も加えており、オリジナリティは高い。
氏名	齋藤 桃
所属	言語情報コミュニケーション系プログラム／感性コミュニケーション論クラスタ
賞名	「触れると心が安らぐで賞」
論文題目	柔らかさの触覚刺激がストレスの主観的・生理的指標に与える影響
学科長コメント	柔らかさという触覚刺激がストレス反応に与える影響を、主観的指標と生理的指標の両面を用いた実験を通して検討した力作。とくに、柔らかい物体への接触が主観的な不安を有意に軽減することを明らかにし、触覚刺激が心理的ストレス緩和において重要な役割を果たすことを示唆しており、対人接触が困難な人や場合におけるウェルビーイングの可能性を提示した社会性は高く評価される。先行研究レビュー、方法論と方法、研究倫理、仮説と結果、支持されなかった仮説についての考察にいたる記述のし方についても、研究論文として遜色がない。
クラスタ推薦文	本論文は柔らかさの異なる触覚刺激が、視覚刺激が喚起する不安を軽減させる効果について、心理生理学的に検討したものである。実験参加者の主観的な報告だけでなく、心拍変動や皮膚温を含む末梢の自律神経活動を計測して、その効果を多面的に検証している。網羅した関連論文から不明な点を洗い出し、いくつかの生理指標を算出して丁寧な検証を行い、科学的に妥当な解釈を行い、新規性のある結果が得られている。このように本論文は、卒業論文としてきわめて高い水準にあり、優秀論文として推薦する。

優秀卒業論文

氏名	玉野 葵
所属	地域文化系プログラム／日本学クラスタ
論文題目	「是枝裕和『海街diary』における「水」の表象分析―「時間」の共有と新たな家族像の形成をめぐる―
クラスタ推薦文	玉野さんの卒業論文は、是枝監督の細やかな演出の特徴を水というテーマから読み解き、映画学をはじめ多様な先行研究を踏まえながら監督の意識的な映像表現の特徴を浮かび上げられた点ですぐれたものである。特にお墓参りのシーンにおける天気の変化の演出はすべて監督の計算によるもので、その点を詳細なショット分析で明らかにした点は、今後の是枝研究の基盤になるだろう。
氏名	常深 佑河
所属	地域文化系プログラム／アジア・太平洋文化論クラスタ
論文題目	バリ親族集団ダディアをつなぐもの：親密性はどのように維持されるのか
クラスタ推薦文	本論文の著者は、高校2年生の時にバリ人の父を亡くし、その遺骨を届けるためにバリ島カランガセム県に渡り、以来、バリの親族と交流するようになった。亡き父の面影を持つ日本育ちの著者は、バリの父方の親族から親しみを持って歓迎を受け、英語ができる同世代のはとこや叔父・叔母らを通じて、自分自身のバリの親族との交流を重ねつつあった。著者が卒論のテーマとして取り上げた、ダディアと呼ばれるバリ特有の親族集団は、著者に対して開かれた自分自身の親族であり、かつ探求するべき道の異文化世界でもあった。著者は、C・ギアツ&H・ギアツ(1989)による文化人類学の古典的名著をはじめ、吉田(1992)、中谷(2003)らの研究を踏まえ、閉鎖的村落の枠内で定式化してとらえられる傾向のあった父系親族集団ダディアについて、現代世界に生きる自分自身の親族の事例を通じて批判的に検討し、特にダディア内における親密性の濃淡をもたらす関係性について論じた。充実したフィールドデータに基づき、古典的親族理論に挑んだ力作であるといえる。
氏名	藤原 香穂
所属	地域文化系プログラム／ヨーロッパ・アメリカ文化論クラスタ
論文題目	都市と組織による社会文化的実践を通じたLGBT+の可視化促進―ポーロニアにおけるCassero LGBTQIA+ Centerの成立と展開を手がかりに―

クラスタ推薦文	本研究は、執筆者のイタリアにおける長期留学中の学びと経験をきっかけに取り組みられたものである。一般に、欧州先進国のなかでもイタリアは、LGBTQ+運動の後進国とみなされることが多い。執筆者は、そうした環境のなかにあっても、比較的リベラルな都市であるボローニャにおいて、「カッセロ LGBTQ+ センター」を中心とした積極的なジェンダーフリー運動が展開されていることに着目した。執筆者は、日本ではその存在をほとんど知られていないカッセロの誕生、発展、特色、そして、その現代的意義について、英語とイタリア語の資料を駆使しながら丁寧に論じている。とりわけ、このカッセロの誕生と成長において、共産主義の影響が強いボローニャ市からの多大な助力があったという史実、また、ジェンダーマイノリティの生活を疑似体験できるボードゲームの開発など、その独特のジェンダー教育プログラムについて明らかにしたことは、既存の欧州ジェンダー研究をさらに深化させる上でも重要な学術的意義があると評価できる。
氏名	金原 麻衣
所属	異文化コミュニケーション系プログラム／異文化関係論クラスタ
論文題目	実践の再編を通じて持続する伝統：長野県新野の盆踊りと切子灯籠作りの民族誌
クラスタ推薦文	本卒業論文は、長野県新野で開催された盆踊りと、その盆踊りを構成する重要な切子灯籠の制作と使用を対象としたフィールドワークに基づく民族誌である。2024年に開催された盆踊りでの現地調査に加えて、2025年6月に盆踊りの準備、灯籠製作の様子を調査した上で、2025年8月に盆踊りの再調査を実施したことによって、盆踊りの実態を多角的に明らかにした労作である。特筆に値するのは、現在新野に残るただ一人の灯籠制作者と、その技術を継承するために近年になって弟子入りをした女性へのインタビューと制作現場の参与観察に基づいて、盆踊りを構成する重要な灯籠制作工程とその技術継承の実態を詳細に明らかにしている点である。本論文は、その議論の内容のみならず、資料的価値も極めて高い優れた研究である。
氏名	桑田 梓
所属	異文化コミュニケーション系プログラム／越境文化論クラスタ
論文題目	イタリア地理学協会(Società Geografica Italiana)所蔵の「伊能図」写本について
クラスタ推薦文	本論文は、イタリア留学中に、ローマ地理学協会に収蔵されている伊能図を「発見」したことに端を発する。シーボルト事件でも知られるように、海外に流出している伊能図はいくつかあるが、本論文はイタリアに流出した伊能図写本を詳しく検討したものである。イタリアで発見したこの(カタカナ書きにされている)地図を、原典と考えられる地図(学習院収蔵の中国)と詳しく比較した考察を加えている。またこれを日本に持ち出したとされる幕末・明治初期のイタリア外交官であったクリストフォロ・ロベッキの手記(イタリア語手稿)なども検討し、持ち出された経緯や状況についての検討も加えており、オリジナリティは高い。
氏名	西野 愛子
所属	異文化コミュニケーション系プログラム／多文化共生論クラスタ
論文題目	『日韓関係におけるアメリカの影響 ～日韓GSOMIAをめぐる外交政策分析による一考察～』
クラスタ推薦文	本論文は、日韓GSOMIAを事例に、日韓二国間関係を日・米・韓三国間関係の文脈で捉え、外交政策分析(FPA)の枠組みに基づき、外圧と国内政治要因の相互作用を精緻に分析している。英語および韓国語による政府声明・報道資料といった一次資料を積極的に用い、先行研究と組み合わせることで実証的に議論を展開している点は特に高く評価できる。オバマ政権期とトランプ政権期の比較分析も論理的で、因果メカニズムの提示が明確である。学部卒業論文として完成度が極めて高い優秀な研究である。
氏名	横井 佳菜子
所属	現代文化システム系プログラム／モダニティ論クラスタ
論文題目	日本におけるアルフォンソ・ミュシャ人気の検証とその受容背景の考察
クラスタ推薦文	本論文は、19世紀末のパリで活躍したアル・ヌーヴォーを代表するアーティストのひとり、アルフォンソ・ミュシャの日本における人気と受容の背景について考察したものである。本論は、漠然と認知されている「日本におけるミュシャ人気」について、様々なデータや文献の調査・分析を通し、客観的に立証することに成功している。とりわけ、1970年代～現在までに日本国内で開催されたミュシャ展について徹底的な調査を行い、今後のミュシャ研究に寄与するデータベースを独自に作成したことは高く評価できる点である。また、そうした地道な調査に裏づけられた本論の主張も十分に納得のいく、説得力のあるものであった。
氏名	三浦 明日香
所属	現代文化システム系プログラム／先端社会論クラスタ
論文題目	「女工」はいかに語られてきたか—〈哀史〉と〈讃史〉をめぐる代表と忘却
クラスタ推薦文	本卒業論文は、明治時代以降の「女工」に関する歴史的評価を、悲惨な生活を強いられたという「哀史」でもなく、日本近代化の礎となったという「讃史」でもなく、グローバルな生糸市場に組み込まれた労働者として、サバルタン論をベースにヒストリグラフィアの観点から再考したものである。アカデミック／ノンアカデミックを問わず古今東西の「女工」言説と表象を調べ上げ、明確な問題意識をスムーズな論理展開のもとで、冷静な筆致で書き上げた秀作である。
氏名	Nurul Aini Azlinda Binti Hasmi
所属	言語情報コミュニケーション系プログラム／言語コミュニケーション論クラスタ
論文題目	Relationships between Japanese language fluency and individual differences among Malaysian government-sponsored students
クラスタ推薦文	本論文は、マレーシア国費留学生の第二言語としての日本語コミュニケーション能力に生じる差異について、動機づけ・性格・認知能力の3要因を用いて混合研究法で精緻に分析したものである。質問紙調査・適性検査・面接の3段階にわたる調査結果から、流暢さの発達には言語適性よりも、情動面・社会的交流・実際の使用機会が強く影響することが明らかになった。また、流暢さは文脈依存的で動的に変化するという理論的示唆も得られ、準備教育や受け入れ大学での具体的な支援に役立つ提案もなされている。
氏名	齋藤 桃
所属	言語情報コミュニケーション系プログラム／感性コミュニケーション論クラスタ
論文題目	柔らかさの触覚がストレスの主観的・生理的指標に与える影響
クラスタ推薦文	本論文は柔らかさの異なる触覚刺激が、視聴覚刺激が喚起する不安を軽減させる効果について、心理生理学的に検討したものである。実験参加者の主観的な報告だけでなく、心拍変動や皮膚温を含む末梢の自律神経活動を計測して、その効果を多面的に検証している。網羅した関連論文から不明な点を洗い出し、いくつかの生理指標を算出して丁寧な検証を行い、科学的に妥当な解釈を行い、新規性のある結果が得られている。このように本論文は、卒業論文としてきわめて高い水準にあり、優秀論文として推薦する。
氏名	吉直 雄心
所属	言語情報コミュニケーション系プログラム／情報コミュニケーション論クラスタ
論文題目	Restell:「眠いです。」をあえて表明させることで授業中の眠気を解消するシステム
クラスタ推薦文	長時間授業での眠気は避けがたい。本論文では、学生が「眠いです。」ボタンで眠気を表明し、眠い学生の割合が閾値を越えると教員画面に「休憩を開始する」ボタンが表示されるシステムRestellを開発している。休憩そのものの効果に加え、近づいてくる休憩への期待もが眠気を解消させようという仮説に基づく設計はシンプルな見た目以上に熟考されている。研究の背景から位置づけ、実際の授業で居眠りを観測する実験など全体を通して実直に取り組みされた論文である。

※芸術文化論クラスタからは該当推薦者がありませんでした。